

## 2023 春 IT ストラテジスト試験 全国統一公開模試 講評と採点基準

2023 年 3 月 25 日 (株)アイテック IT 人材教育研究部

## ■ 全体講評

2023 年春全国統一公開模試、IT ストラテジストの午後 I 試験は、記述式 4 問のうち 2 問を選択する問題でした。問 1 はバス会社におけるデジタルトランスフォーメーションの推進、問 2 は地方菓子メーカーの情報化戦略、問 3 は物流業における物流業務の統合、問 4 はデジタルカメラの新製品企画について出題されました。問 1 を選択した人が 87%、問 2 を選択した人が 57%、問 3 を選択した人が 35%、問 4 を選択した人が 21%ほどでした。問 1、問 4 の平均点は高くなりましたが、問 2 と問 3 はあまり高くありませんでした。

## 問1 バス会社におけるデジタルトランスフォーメーションの推進

## 【採点基準】

## [設問1]

課題の解決によって市内路線バス事業と都市間高速バス事業の方向性をどのようにしようと考えたかは、解答例と同趣旨の答えであれば各 5 点です。市内路線バス事業の方向性は「採算性の確保」も可とします(別解)。余計な記述などは 2 点減点、「非効率な運行状態の改善」など課題の解決策を書いた場合は 0 点です。

## [設問2]

- (1) 仮想バス停を設定することで、A 社はどのような問題を解決できると考えたかは、解答例と同趣旨の答えであれば 6 点、余計な記述などは 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。
- (2) 高齢者にスマートフォンの貸出しを行う際、併せてどのようなことを実施すべきかは、解答例と同趣旨の答えであれば 6 点、単に「説明する」などの記述不十分は 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。
- (3) 市内路線バスをリクエスト型最適経路バスに変更することで、都市間高速バス事業に与える効果は、解答例と同趣旨の答えであれば 7 点、「増発便の対応」の抜けなどの記述不十分や余計な記述は 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。
- (4) 車内の混雑状況をリアルタイムで伝えること以外に、今後、収集したデータを活用して提供すべき情報は、解答例と同趣旨の答えであれば 7 点、「混雑状況の予測」の抜けなどの記述不十分や余計な記述は 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。

## [設問3]

- (1) 高速バス座席予約システムに、利用者のスマー

トフォンを活用することで A 社が享受するメリットは、解答例と同趣旨の答えであれば 7 点、記述不十分などは 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。なお、「予約客が乗車しなかった場合の座席の販売ロスの減少」も可とします(別解)。

- (2) 本文中の下線③の機能(QR コードを読むと目的地への到着予定時刻を表示)を提供した狙いは、解答例と同趣旨の答えであれば 7 点、「鉄道」に関する記述の抜けなど記述不十分や余計な記述は 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。

## 【講評】

バス会社におけるデジタルトランスフォーメーションの推進に関する出題です。設問 1 は、設問の意図が読み取りにくく、やや難だったと思いますが、それ以外は比較的平易な設問でした。最初の問題ということもあり、平均点はかなり高くなりました。

設問 1 の市内路線バス事業と都市間高速バス事業の方向性は、都市間高速バス事業は正答率が高かったものの、市内路線バス事業は、解答例や別解のような答えは少なく、正答率はあまり高くありませんでした。「非効率な運行状態の改善」などの答えが多く見られました。

設問 2 の(1)仮想バス停によってどのような問題を解決できるかと、(2)スマートフォンの貸出しの際に併せて実施すべきことは、正答率が高くなりました。(3)市内路線バスのリクエスト型への変更が都市間高速バス事業に与える効果は、正答率が高めでした。(4)収集したデータを活用して提供すべき情報も、正答率が高めでしたが、「混雑状況の予測」が抜けた答えも少なからず見られました。

設問 3 の(1)利用者のスマートフォンを活用することで A 社が享受するメリットは、正答率が高めでした。解答例のような答えは少なく、別解での答えが多く見られました。(2)本文中の下線③の機能を提供した狙いは、「鉄道」に関する記述の抜けが多く、部分点に該当する答えが多く見られました。

## 問2 地方菓子メーカーの情報化戦略

## 【採点基準】

## [設問1]

- (1) SNS への登録を増やすために HP 上で SNS の登録者へ提供するサービス(特典)の内容は、解答例と同趣旨の答えであれば 8 点、「電子的」の抜けなどの記述不十分や余計な記述は 4 点減点、的外れ

な答えは0点です。

- (2) SNSに登録してもらった顧客に提供すべき情報は、解答例と同趣旨の答えであれば8点、「新製品」の抜けなどの記述不十分や余計な記述は4点減点、的外れな答えは0点です。

#### 【設問2】

- (1) 直営店の商品在庫の適正化のために、生産計画システムからどのように推奨発注数を提示すればよいかは、解答例と同趣旨の答えであれば8点、「日別販売計画」の抜けや余計な記述は4点減点、的外れな答えは0点です。
- (2) 生産計画システムから取引先販売店にファックスで提供すべき情報とその活用方法は、解答例と同趣旨の答えであれば8点、記述不十分などは4点減点、的外れな答えは0点です。なお、ここは取引先の発注予定数の精度を上げることが目的なので、「取引先の発注予定数と実際の発注数の差異情報を提供し、取引先の発注精度を上げてもらう」などといった答えも可とします（別解）。

#### 【設問3】

- (1) ジャストインタイムでの納入を実現するためには包装資材メーカーにどのような情報を基にどのように発注を行えばよいかは、解答例と同趣旨の答えであれば9点、記述不十分や余計な記述は4点減点、的外れな答えは0点です。
- (2) 包装資材メーカーに提供することにした情報は、解答例と同趣旨の答えであれば9点、記述不十分や余計な記述は4点減点、的外れな答えは0点です。

#### 【講評】

地方菓子メーカーの情報化戦略に関する出題です。設問2がやや難で、それ以外の設問は比較的平易だったと思いますが、平均点は4問中で一番低くなりました。設問2の(1)は、直営店の日別販売計画が新しい生産計画システムに反映されているのかどうか明示されておらず、解答しにくい設問でした。設問2の(2)は、解答例のような答えを導くのは、やや難しいかもしれません。

設問1の(1)HP上でSNSの登録者へ提供するサービス(特典)の内容は、「電子的」の抜けた答えが数多く見られました。(2)SNSに登録してもらった顧客に提供すべき情報は、正答率が高めでした。

設問2の(1)生産計画システムからどのように推奨発注数を提示すればよいかは、「日別販売計画」の抜けた答えが多く、正答率が低めでした。(2)生産計画システムから取引先販売店にファックスで提供すべき情報とその活用方法は、解答例のような答えはほとんど見られ

ず、別解のような答えが若干ありました。

設問3の(1)ジャストインタイムでの納入の実現のために包装資材メーカーにどのような情報を基にどのように発注を行えばよいかは、週次の生産計画に触れた答えが少なく、正答率はあまり高くありませんでした。(2)包装資材メーカーに提供することにした情報は、的外れの答えが多く、正答率は低めでした。

### 問3 物流業における物流業務の統合

#### 【採点基準】

##### 【設問1】

- (1) 集約が必要なC社の本部の機能は、解答例と同趣旨の答えであれば8点、記述不十分などは4点減点、的外れな答えは0点です。
- (2) M社の顧客からのクレームに対応するために、B社の業務システムに追加する情報は、解答例と同じであれば2点、情報を追加する目的は、解答例と同趣旨の答えであれば6点、記述不十分などは3点減点、出庫に関する記述のない答えは0点です。なお、追加する情報を「賞味期限」、情報を追加する目的を「製品を賞味期限ごとに出庫できるようにするため」などとしても可とします（別解）。製品に大量の注文があり、複数の入庫年月日にまたがって出庫する場合、賞味期限が異なる可能性があるからです。

##### 【設問2】

- (1) B社の車両を継続使用するために必要な改良項目は、解答例と同趣旨の答えであれば4点、余計な記述などは2点減点、的外れな答えは0点です。
- (2) 車両が製品を積載する倉庫が1か所になるようにするために、B社の倉庫管理部門が製品在庫に行わなければならない調整は、解答例と同趣旨の答えであれば7点、「～品の全て」の「全て」の抜けや余計な記述は3点減点、的外れな答えは0点です。
- (3) C社の車両に置き換えていく理由は、解答例と同趣旨の答えであれば7点、余計な記述などは3点減点、的外れな答えは0点です。なお、ここは「1台で冷凍品、冷蔵品、常温品を混載して配送可能だから」なども可とします（別解）。

##### 【設問3】

- (1) 倉庫を統合するための条件(倉庫間の距離以外の条件)は、解答例と同趣旨の答えであれば8点、記述不十分や余計な記述は4点減点、的外れな答えは0点です。
- (2) トラックヤードの現場のクレームを減らすためにリソースを活用して行うことは、解答例と同趣

旨の答えであれば 8 点、「積載の準備」の抜けや余計な記述は 4 点減点、的外れな答えは 0 点です。

#### 【講評】

物流業における物流業務の統合に関する出題です。設問 1 の(2)や設問 3 がやや難でしたが、それ以外は比較的平易だったのではないのでしょうか。問題説明文が分かりやすく、比較的解きやすい問題だったと思いますが、平均点はあまり高くありませんでした。

設問 1 の(1)集約が必要な C 社の本部の機能は、正答率が高くなりました。(2)クレームに対応するために B 社の業務システムに追加する情報は、正答率が高めでしたが、情報を追加する目的は、出庫に関する記述のない答え(単に賞味期限の混在を避けるためとする答え)が多く正答率はあまり高くありませんでした。別解のような答えも若干見られました。

設問 2 の(1) B 社の車両を継続使用するために必要な改良項目は、正答率が高めでした。(2)車両が製品を積載する倉庫が 1 か所になるように製品在庫に行わなければならない調整は、「冷凍品～常温品の全て」の「全て」の抜けた答えがかなり多く見られました。(3) C 社の車両に置き換えていく理由は、正答率が高めでした。解答例よりも別解での答えが多く見られました。

設問 3 の(1)倉庫を統合するための条件は、的外れな答えが多く正答率は低めでした。(2)トラックヤードの現場のクレームを減らすためにリソースを活用して行うことは、記述不十分や的外れな答えが多く正答率は低めでした。

### 問4 デジタルカメラの新製品企画

#### 【採点基準】

##### [設問1]

〔購入者のニーズ分析〕の下線①(一つのグループを検討対象から外す)について、外したグループ名は、解答例と同じであれば 2 点、外した理由は、解答例と同趣旨の答えであれば 10 点、「PC の操作が苦手」の抜けや余計な記述は 5 点減点、的外れな答えは 0 点です。

##### [設問2]

〔技術分析〕の下線②(ターゲットとするグループを決定)について、ターゲットとすることにしたグループ名は、解答例と同じであれば 2 点、ターゲットとした理由は、解答例と同趣旨の答えであれば 12 点、「焦点距離 300mm のズームレンズが不要」の抜けや余計な記述は 6 点減点、的外れな答えは 0 点です。

##### [設問3]

〔新製品の要求仕様〕の下線③(顧客の満足度を高

めるためには、カメラに搭載する組み込みソフトウェアに工夫する点がある)について、P 氏が組み込みソフトウェアに工夫する点があると考えていた内容は、解答例と同趣旨の答えであれば 10 点、「操作パネル」の抜けなどの記述不十分や余計な記述は 5 点減点、的外れな答えは 0 点です。

##### [設問4]

(1) 期間限定で下取りキャンペーンをする目的は、解答例と同趣旨の答えであれば 8 点、記述不十分などは 4 点減点、的外れな答えは 0 点です。

(2) A 社製品の旧型モデルに対して自動転送ソフトウェアの提供を期間限定とする理由は、解答例と同趣旨の答えであれば 6 点、「早急に置き換える」など買い替えを促進する記述の抜けや余計な記述は 3 点減点、的外れな答えは 0 点です。

#### 【講評】

デジタルカメラの新製品企画に関する出題です。それ程難しい設問もなく、比較的平易な問題だったのではないのでしょうか。平均点は 4 問中で一番高くなりました。

設問 1 の検討対象から外したグループ名は、正答率が高くなりました。外した理由には、記述不十分な答えもありましたが正答率は高めでした。

設問 2 のターゲットとすることにしたグループ名も、正答率が高かった一方で、ターゲットとした理由には、「焦点距離 300mm のズームレンズが不要」の記述の抜けた答えが多く見られました。

設問 3 の P 氏が組み込みソフトウェアに工夫する点があると考えていた内容は、一部には的外れな答えも見られましたが、正答率は高めでした。

設問 4 の(1)期間限定で下取りキャンペーンをする目的、(2)旧型モデルに対して自動転送ソフトウェアの提供を期間限定とする理由は、正答率が高くなりました。

以上